

単元デザイン FIRST STEP ―小学校外国語科―

PDCA サイクルを意識した授業改善に向けて R7 版

1 PDCAサイクルを意識した単元デザインについて

- 単元デザインは、学習指導要領に示された資質・能力の育成を目指し、指導と評価の一体化を図るための重要なプロセスです。
- PDCAサイクルにおける Plan の段階として、単元を通して育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の計画を作成することが重要です。
- さらに、PDCAサイクルを意識した授業改善において、Check と Action の段階で得られた学習成果や課題の振り返りを次の Plan へ反映させることで、より質の高い単元デザインにつなげることができます。



2 単元デザインの手順と各段階のポイント

単元ゴールから※逆向き設計（バックワードデザイン）で、1時間ごとの授業につながりをもたせながら単元をデザインします。



※「逆向き設計（バックワードデザイン）」…目指す児童の姿をゴールとして、必要な題材や言語活動を考え、単元を組み立てる考え方。

① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を考えます。

- 学習指導要領の目標や内容、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編を踏まえている。
- 児童の実態、学習の成果や課題の振り返りなどを踏まえている。

② 単元ゴールの言語活動を決めます。

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などが明確である。
- 相手意識をもち、コミュニケーションの楽しさを実感できる活動を設定している。

③ 単元ゴールの児童の具体的な姿から、単元の評価基準（ルーブリック）を設定します。

- 観点別に目指す児童の姿を具体的に考えている。

④ 単元ゴールの言語活動に向けた※ステップアップの言語活動を各時間に設定します。

- 言語材料について理解したり練習したりするための指導（チャンツやゲームなど）とは区別している。
- ※「ステップアップの言語活動」…単元ゴールの言語活動に向けて、児童がステップアップしていくように設定された各時間の言語活動のこと。

⑤ 各時間の言語活動やその他の学習活動を配列し、指導と評価の計画を作成します。

- 単元の1時目から言語活動が授業の中心となるように設定している。

3 単元デザインの具体

① 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を考えます。

学習指導要領やその解説と照らし合わせながら、当該単元が年間計画のどこに位置付けられているかを確認します。取り扱う題材や言語材料、児童の実態、学習の成果や課題の振り返りなどを踏まえ、単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、単元の目標を設定します。

第5学年「自分のことをもっと知ってもらおう」を例に

学習指導要領解説の領域別目標

（4）話すこと[発表]

イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

（5）書くこと

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

題材は、自分や身近な人ができることやできないことにしようかな。

“I can～.”と“I can’t～.”、he と she の意味や音声の違いに気付くことができるようにしたいな。

語と語の区切りに注意して、書き写すことができるようになってきたから、次のステップに進もうかな。

児童が学習の目的に迫っている姿として、どのような姿が考えられるかな。前単元では明確にイメージできていなかったから、具体的な姿を想定しよう。

単元の目標

相手に自分や身近な人のことをよく知ってもらうために、自分や身近な人ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。また、自分ができることやできないことについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を用いて書くことができる。

② 単元ゴールの言語活動を決めます。

単元ゴールの言語活動は、授業づくりにおいて根幹をなす最も重要なものです。次の4つの視点を踏まえて、単元ゴールの言語活動を設定しましょう。

単元ゴールの言語活動を設定する際の4つの視点

- I 伝え合う目的や必然性がある。
- II 相手意識をもって取り組むことができる。
- III 実際に自分や相手の気持ちや考えを伝え合う「本物」のコミュニケーションである。
- IV 伝え合うことの喜びや意義を見出すことができる。

直山 木綿子 監修「小学校外国語教育の指導と評価」p.38を基に作成

上記の4つの視点を踏まえ、単元ゴールの言語活動を以下のように設定しました。

題材	内容
自分のことをもっと知ってもらおう。	相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話す活動に取り組む。また、自分ができることやできないことについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を用いて書く活動に取り組む。



③ 単元ゴールの児童の具体的な姿から、単元の評価基準（ルーブリック）を設定します。

評価場面となる活動（単元ゴールの言語活動）に取り組む児童の姿を思い浮かべ、「おおむね満足できる」状況（b）と評価できる状況を具体的に文章に表します。その後、「十分満足できる」状況（a）と評価できる状況を検討し、記述します。その際、児童がどのような英語表現を用いていれば「b」、「a」と判断するのか、具体的に英文に書き表しながら検討するようにします。

〔評価基準（ルーブリック）の例〕（8／8時における知識・技能の場合）

	知 識 ・ 技 能
a	自分ができることやできないことを表す表現について理解し、自分の考えや気持ちを含めて、それらを正しく用いて話している。
b	自分ができることやできないことを表す表現について理解し、自分の考えや気持ちを含めて、それらをおおむね正しく用いて話している。
c	「b」を満たしていない。

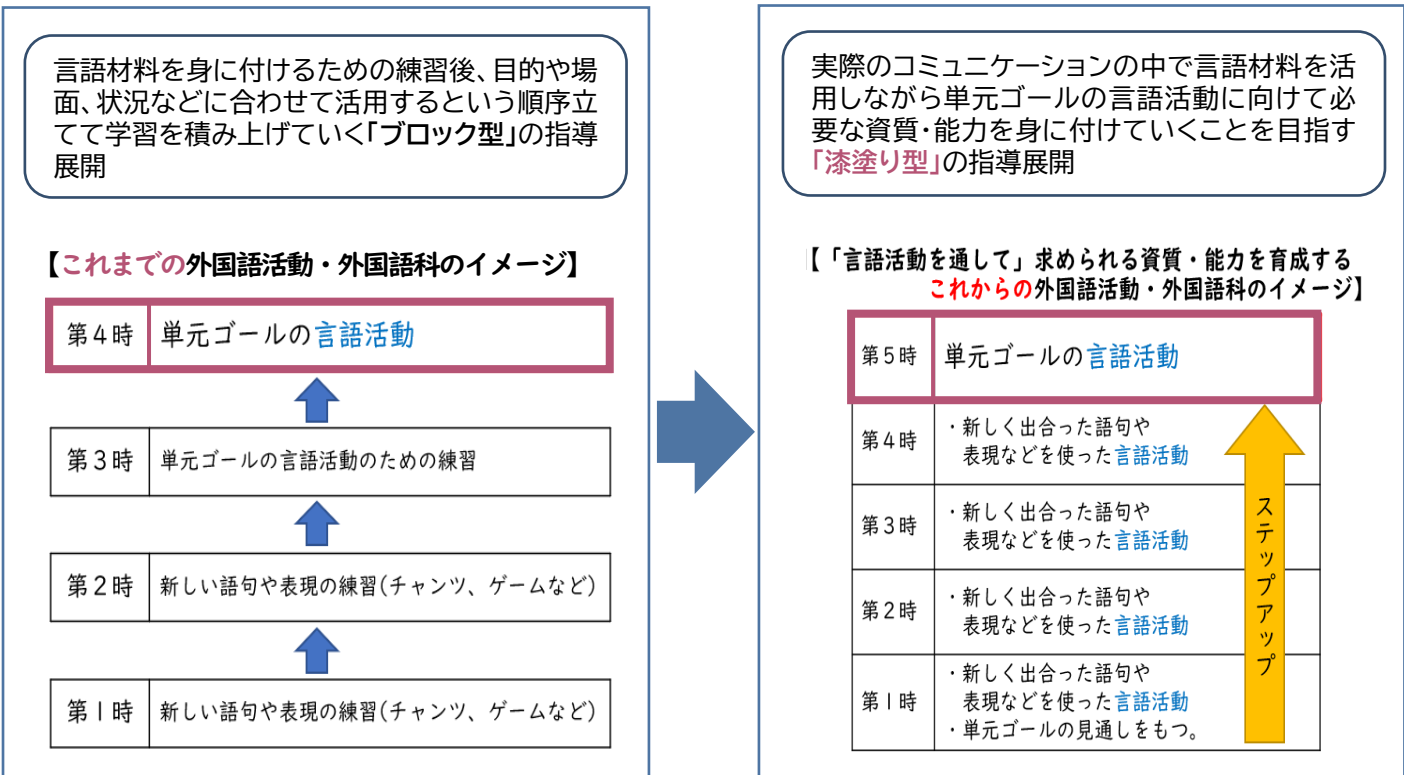
単元を通して身に付けさせたい資質・能力を評価するための言語活動や評価基準（ルーブリック）を明確に設定すると、単元を通して教師が指導すべきことも明確になります。また、妥当性、信頼性を備えた評価を行うために、児童の実態を踏まえた上で、複数の教師（学級担任や専科教員など）で話し合って作成し、共通理解を図ることが大切です。



④ 単元ゴールの言語活動に向けた※ステップアップの言語活動を各時間に設定します。

単元ゴールの言語活動に向けて、各時間にステップアップの言語活動を設定します。その際、「言語活動を通して」資質・能力を育成するという外国語科の目標を踏まえ、単元ゴールの言語活動に向けて、ステップアップの言語活動を塗り重ねていく「漆塗り型」での指導を展開することに留意します。

「ブロック型」から「漆塗り型」へ



「令和4年度小学校における外国語教育指導者養成研修」（直山木綿子）講義資料を基に作成

⑤ 各時間の言語活動やその他の学習活動を配列し、指導と評価の計画を作成します。

単元を通して身に付けさせたい資質・能力に迫るために、効果的に言語活動等を配列するようにします。また、次に示す「指導と評価の計画を作成する際のポイント①～⑤」に沿って、指導と評価の計画を作成します。その際、1単位時間の授業や単元で得られた振り返りや課題を踏まえ、次の Plan へ反映させるようにします。

単元の指導と評価の計画(例)

①単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童に単元の見通しをもたせる場面を設定します。

②単元を通して、単元ゴールの言語活動に向かって、言語活動と指導を繰り返し行います。

③単元を通して、適宜児童の学習状況を把握する場面を設定します。単元の前半では、毎時間の目標に即して、[指導に生かす評価]を行います。後半では、授業の中心に据えた言語活動において、[記録に残す評価]を行います。

④単元末に単元ゴールの言語活動を設定します。

⑤単元の学習を振り返る時間を設定し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

時	目標(◆)活動(○・)	評 価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準(◎)評価方法(<>・)
1	◆指導者の話を聞き、できることやできないことの表現が分かる。 【Let's Watch and Think】 ・単元ゴールの言語活動におけるモデルを聞いて、本単元を通して目指す姿の見通しをもつ。 ○Small Talk: 先生ができること、できないこと 【Let's Listen】 ・指導者やALTの話を聞いて、それぞれのできることやできないことなどを理解する。 【Let's Try】 ・友達に自分ができることを伝える。				本時では、[記録に残す評価]は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても指導者が児童の学習状況を確認する。
2	◆自分ができることやできないことについて、伝えることができる。 【Let's Watch and Think】 ・映像に登場する2人の会話の様子を見たり聞いたりして、2人ができることを聞き取る。 【Let's Listen】 ・ALTの話を聞いて、できることやできないことを聞き取る。 【Let's Play】 ・キーワードゲームを通して、動作などのできることやできないことに関係する表現に慣れ親しむ。 【Let's Think and Try】				本時では、[記録に残す評価]は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても指導者が児童の学習状況を確認する。
8	◆相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。 ○Small Talk: 何ができる？ 【Let's Chant】 She can play the piano. 【Activity】 ・自分ができることやできないことなどについて、これまでの学習を生かしながら話す。 ・単元を通しての学習を振り返る。		発	発	発
		【「話すこと[発表]」の記録に残す評価】 ◎ I can/can't ～. など、自分ができることやできないことを表す表現を用いて話している。<行動観察> ◎相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話している。<行動観察> ◎相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話そうとしている。<行動観察> ・児童が1人1台端末に録画した映像を基に見取り、評価の記録を残す。			